

# 第1章 戦略の策定にあたって

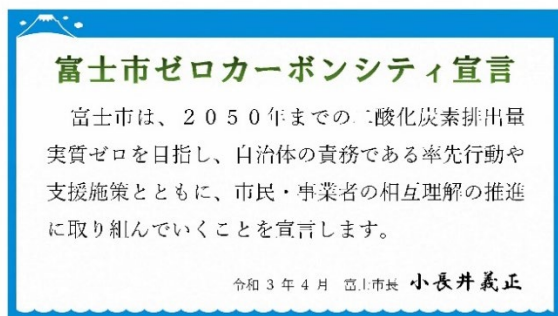
## 1-1 戦略策定の背景・目的

菅元首相は2020（令和2）年10月、就任後初めての所信表明演説において「2050年カーボンニュートラル<sup>※</sup>」を宣言し、2050年までに温室効果ガス<sup>※</sup>の排出を実質ゼロ<sup>※</sup>にするゼロカーボン社会の実現を目指すことを表明しました。

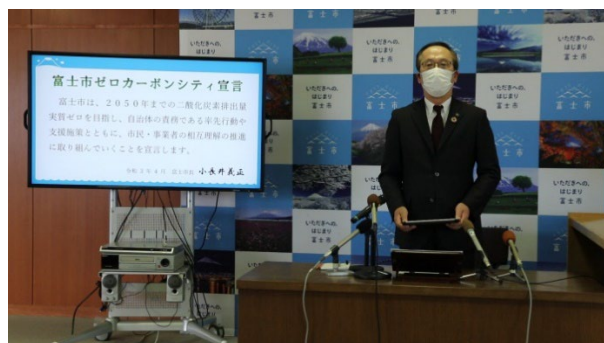
これに伴って全国的なゼロカーボン化の機運が高まる中、富士市（以下、「本市」という。）でも2021（令和3）年4月に「富士市ゼロカーボンシティ宣言<sup>※</sup>」を行い、2050年までにゼロカーボンシティの実現を目指すことを表明しました。

富士市域における「2050年温室効果ガス排出量実質ゼロ」を確実に達成するためには、長期的な戦略が求められるため、域内の再生可能エネルギーのポテンシャル調査結果及び導入目標、2050年を見据えたゼロカーボンシナリオや取組の方針を、この「富士市ゼロカーボン戦略2050～富士市ゼロカーボンチャレンジ～（以下、「本戦略」という。）」において示しました。

本戦略及び国や県の温暖化対策実行計画等を踏まえて、富士市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）を改定し、より実効性のある温暖化対策を推進します。



富士市ゼロカーボンシティ宣言



定例記者会見でのゼロカーボンシティ宣言の様子

### ゼロカーボンシティとは

環境省によると、ゼロカーボンシティは「2050年にCO<sub>2</sub>を実質ゼロにすることを旨とする首長自ら、または地方自治体として公表した地方自治体」と定義されています。

「ゼロカーボン」と似た言葉に、「カーボンニュートラル」があります。現状、これらの言葉は明確な違いを持って取り扱われてはならず、いずれも「CO<sub>2</sub>の排出と吸収をプラスマイナスゼロにする」という意味で使用されています。

本戦略においては「ゼロカーボン」を「温室効果ガス排出量実質ゼロ」という意味として扱い、「カーボンニュートラル」「脱炭素」も同義とします。

## 1-2 戦略の位置づけと役割、他計画との関係

本戦略は、「第六次富士市総合計画」、「第三次富士市環境基本計画」、「富士市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」等と連携しながら、2050年のゼロカーボン達成に向けた基本的な方向性と実現に向けたシナリオや取組の方針等を示すものです。

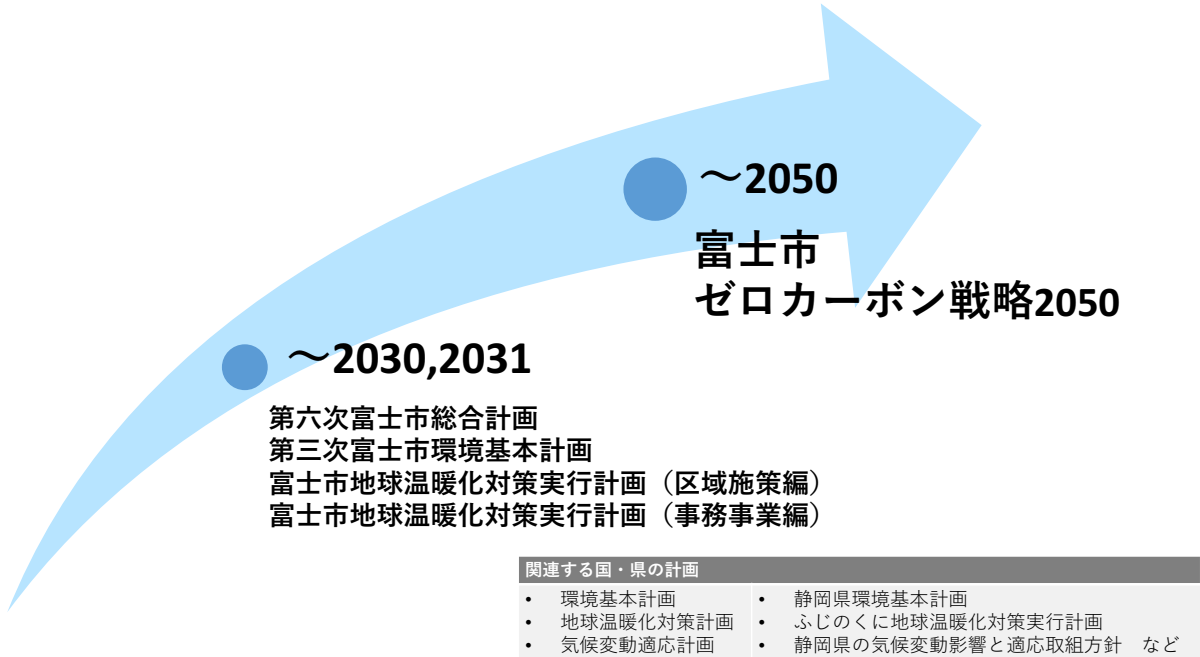


図 1-1 富士市ゼロカーボン戦略 2050 の位置づけ

## 1-3 戦略の期間

本戦略は、2050年ゼロカーボン達成という最終目標に向けて将来像を描くとともに、2030年度を中間目標として具体的な取組方針を検討します。

「富士市地球温暖化対策実行計画」とも連動し、社会潮流や本市の現況に適切に対応するため、必要に応じて中間見直しを実施します。

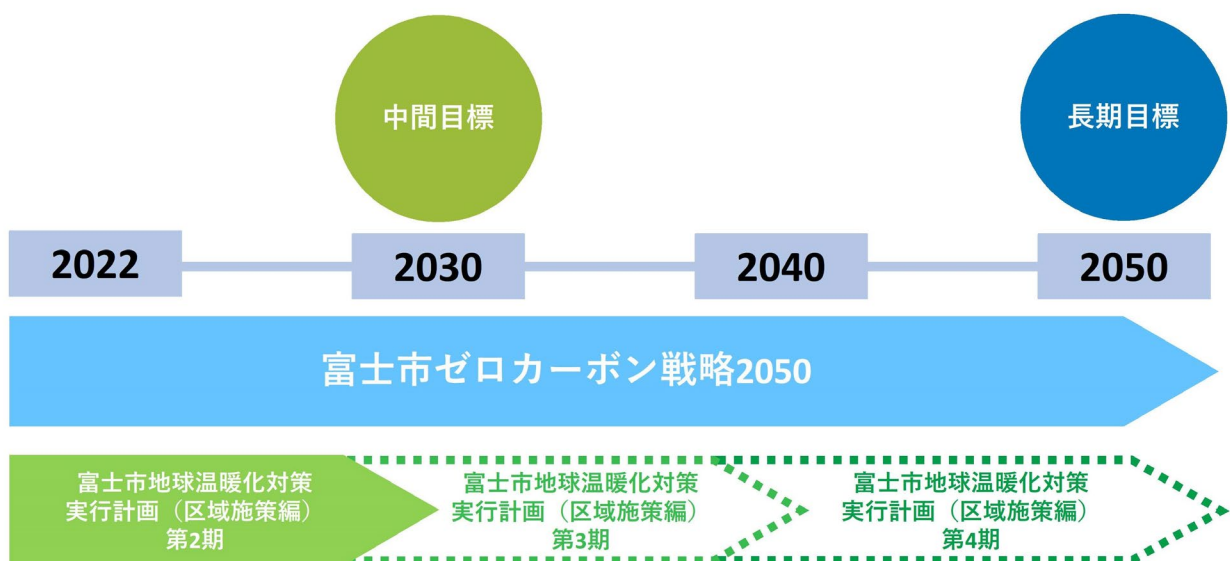


図 1-2 富士市ゼロカーボン戦略 2050 の期間